

中世後期ブラバント公権と都市：近代国家形成過程 における君主=都市関係の予備的考察

藤井，美男
九州大学大学院経済学研究院：教授

<https://doi.org/10.15017/1806673>

出版情報：経済学研究. 83 (5/6), pp.51-70, 2017-03-31. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：



中世後期ブラバント公権と都市

——近代国家形成過程における君主＝都市関係の予備的考察——

藤 井 美 男

はじめに¹⁾

中世ネーデルラント経済史の泰斗 W. ブロックマンスは、都市と国家との関係を論じた研究において次のように述べる。中世から近世初頭における西欧の領邦君主国家が「近代国家」として発展する過程では、それが実は軍事的な意味で「封建国家」としての属性をなお強く帯びており、本質的には資本主義国家とは全く異なるものであること、集権的官僚制を必要とする近代国家による戦争は、同時に戦費目的の課税を膨大なものとする、高度な都市的ネットワークの発展は、経済的世界を形成して当初君主国家の成長の糧となるものの、その資本主義的成長はやがて財政支援を求め続ける君主国家の論理とは対立し、国家権力の伸長には逆に阻害的となっていく、と (Blockmans, W. [1988a] p.178-180)。

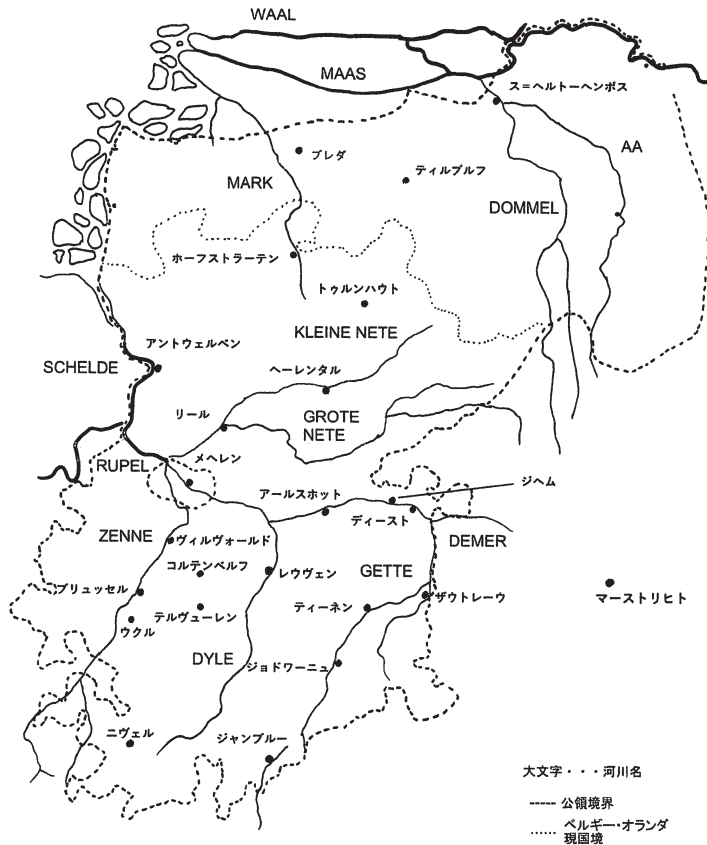
筆者は、近代国家形成過程の諸問題という大きな命題のうち²⁾、都市と国家という視点から幾つかの考察を続けてきた。その中では中世ブラバント都市ブリュッセルを主として取り上げ (藤井 [2007]: [2011]: [2016b])、近代国家の可逆的形成過程の一端を描く試みを行った。本論文はそうした考察の一部を形成する。つまり、1430年にブルゴーニュ公フィリップ＝ル＝ボンが統治を開始する前のブラバント公領における都市と君主との関係を、これまでのように1つの都市のみを対象とするのではなく、諸都市を全体として見ることで捉えようというのである。

中世後期のブラバント公領には有力都市がひしめき、領邦君主はそれら全てに対応する必要があった。従って、上記ブロックマンスの措定する命題を検討するには、諸都市を一群のものとして扱わねば、十全な結果を得られないのである。ただし、そうした考察をここですべて行うには紙幅の制約が大きい。そこで以下ではそのための予備的考察として、まず12世紀末から15世紀初頭に至るブラバント諸都市と公権の関係を概観する。経済的・政治的成長を遂げるブラバント諸都市が、その過程でブラバント公政権とどのように対峙したのか。その推移を予め通時的に理解しておくことで、近代国家形成過程における君主と諸都市の詳細な関係理解をより容易にしようというのが、本稿の目的である³⁾。

1) 本稿では末尾に文献目録を掲載し、引用の際は、当該文献の編著者名と発表年、頁数を文中に挿入して示す。また、地名は現在の現地表記を原則とし、君侯の呼称は複数言語があり得る場合、仏語読みに統一している。

2) これに関する先行研究は膨大な数に上る。ここでは、1990年の総括的な仕事 (Genet [1990]) とそれ以降の研究を列挙するに留める (Actes [1993]/Blockmans, W. [1993]/Genet [1996]/Actes [1997])。

3) 従って、本論文各所で言及する論点の詳細については別稿で掘り下げる予定にしている。



【図1】中世後期ブラバント公領と諸都市

*藤井 [2011] p.139より作成

第1節 「良き都市」の群立から7大都市へ

(1)「良き都市」の出現

中世ブラバント公領はあまたの都市的集落を数えるが（【図1】参照）、それらは君主たるブラバント公に直結した都市と、公の家臣である在地領主に従う都市の2種類に分かれていた。前者の性格を持つものとして最初に史料中言及されたのは1194年とされる。同年ブラバント公アンリ1世とフランドル伯、エノー伯およびナミュール伯との和平交渉において、貴族層に続き証人として代表者が列席した9都市—アントウェルペン Antwerpen・ブリュッセル Bruxelles・レウヴェン Leuven・ニヴェル Nivelles・ジャンブルー Gembloux・ティーネン Tienen・ザウトレーウ Zoutleeuw・リール Liege・ジョドワーニュ Jodoigne—がそれである（Favresse [1938] p.374-376）⁴⁾。また領主に服属する都市としては、アールスホット Aarschot・ブレダ Breda・ディースト Diest・ホーフストラーテン Hoogstraten・

4) ただし、ジャンブルーとジョドワーニュはすぐにその政治的役割を失ったため、その後もブラバント公を領主としたのは他の7都市である、という（Godding [1973] p.98）。

テュルンハウト Turnhout・ジヘム Zichem などが挙げられる (Van Gerven [1988a] p.386)⁵⁾。

公権に属す諸都市はやがて「良き都市」bonnes villes, goede steden と呼ばれるようになり、その数を増してゆく。それらが必ずしも常にかつ明確に「良き都市」として呼称された訳ではないものの⁶⁾、13世紀以降はその数が十指を超えるほどになったことは疑いない (Van Uytven [2004c] p.118-120)。1213年のアンリ1世の公令 (Favresse [1938] p.376) においては上記9都市に、ス＝ヘルトーヘンボス's-Hertogenbosch・ジヘム・アールスホットが加わり (Van Uytven [1987a] p.118-119)、また、1464年のブルゴーニュ公 (ブラバント公) フィリップ＝ボンが招集した議会でも、12都市が列举されているのだ (Van Gerven [1988a] p.393-394)⁷⁾。

いずれの属性を持つ都市においても、多くの場合13世紀後半以降とりわけ14世紀に入ってから、人口や経済成長を確認することができる (Van Uytven [1987b])⁸⁾。その原動力となったのは、大河川⁹⁾と海洋へ近接するという地理的条件をも利しての (Blockmans, W. [1988a] p.174: [1988b] p.6)、南ネーデルラント諸邦ほぼ全域で見られる毛織物商工業の発展であった (【表1】)¹⁰⁾。そうした早熟とも言える人口と経済の成長は、後述する通り、各都市の政治的・法的権力の源泉となった¹¹⁾。1430年のブルゴーニュ

【表1】毛織物輸出都市の成長

	1350-1375	1375-1400	1400-1403
Leuven	○	○	○
Bruxelles	○	○	○
Mechelen	○	○	○
Lier	○	○	○
Antwerpen	○	○	○
Diest	○	○	○
Aarschot	○	○	○
Tienen	○	○	○
Vilvoorde	○	○	○
Zichem	○	○	
Herentals		○	○
Bergen op Zoom		○	○
's-Hertogenbosch		○	○
Kontich		○	
Turnhout		○	○
Rumst			○
Duffel			○
Walem			○

*Van Uytven, R. [2004d] p.174 より作成

5) 領主権に服す都市については、「領主都市」をテーマに掲げた第8回ブラバント都市史学会 (Bosman [1988]) を見よ。

6) 例えば、リエージュ司教や在地領主の権利が複雑に絡んでいたメヘレン Mechelen をブラバントの有力都市と捉えることができるのは1315年からである (Avonds [1970])。また、ニヴェルもブラバントの「良き都市」と表現されるのは、1332年頃からとされる (Hoebanx [1963] p.391)。

7) 1464年に記されているのは、レウヴェン・ブリュッセル・アントウェルペン・ス＝ヘルトーヘンボス・ティーネン・ジョドワーニュ・ヴィルヴォールド Vilvoorde・マーストリヒト Maastricht・ザウトレーウ・リール・トゥルンハウト Turnhout・ニヴェルの12都市である (Blockmans, W. [1968] p.104-105)。

8) 本稿の時代射程外ではあるが、ブラバント諸都市の13世紀に至る初期的成長については右の諸論考を参照されたい (Bonenfant [1953]: [1962]/Van Uytven [1983]: [1987a+b]/Despy [1968]: [1969]: [1973])。

9) ブラバント公領は、スヘルデ・ゼンヌ・デイレ・マースなど大小河川に恵まれた地理環境にあった。【図1】参照。

10) 中世後期南ネーデルラントにおける毛織物商工業の発展史については、もはや贅言を要しないであろう。ここではブラバント諸都市について、まず総論としてヴァン＝アウトフェンの論考を挙げ (Van Uytven [1976b]: [2004c] p.121-123)、個別都市については以下の研究を示すに留める。レウヴェン (Van Uytven [1980] p.159-170/Avonds [1985])、ブリュッセル (De Peuter [1979]/Baerten [1979b]/藤井 [2007] p.179-210)、アントウェルペン (Asaert [1973]/Van Uytven [1986]/Van Gerven [1988b])、メヘレン (Van Uytven [1965]/Peeters [1984]/藤井 [1998] p.137 sqq.)、ヴィルヴォールド・ザウトレーウ・ティーネン・ディースト (Peeters [1972]: [1982]: [1988]: [1989])、ヘーレンタルス Herentals (Verellen [1955])、リール (Grootaers [1993])。

11) この関連で、13-14世紀エノー伯領に関しヴァランシエンヌ Valenciennes・モンズ Mons 両都市を分析対象として、君主権と都市の自立主義の相互依存関係を主張する論考 (齋藤 [2016]) を挙げたい。

公による統治開始まで、脆弱なブラバント公権と有力貴族の欠如という政治的環境の中で¹²⁾、有力都市はその複合的な権能を都市外へ大きく拡大していくのである (Van Uytven [1976a] p.96-97)。

(2) 7大都市体制—13世紀後半～14世紀前半—

11-12世紀のブラバント公領は、公権による安定的かつ均質な支配からは程遠く、公の直轄領以外に封臣たちの支配地が多く混在する様相を呈していた¹³⁾。また、外部の君主権が浸潤しているところもあり (Ganshof [1934] p.87-89)、ブラバント公は政権安定のために、軍事的・財政的支援を当初は領主層に求めていた (Van Uytven [1976a] p.94-95)。しかしながら、12世紀から13世紀にかけて成長を遂げてきた都市が貴族権力を次第に上回り始める (Blockmans, W. [1988b] p.5-6)。

都市の勢力増大につれて—1194年に列記された前述9都市の例を見よ—、12世紀後半以降在来貴族・領主層の地位は次第に低下し、ブラバント公への対抗力を失っていった¹⁴⁾。こうした情勢変化はブラバント公に有利な作用を及ぼした。領主層に依拠せずとも、新規の都市法や特権の付与によって、諸都市から財政的・政治的支援を引き出すことが可能となったからである¹⁵⁾。13世紀以降有力諸都市は、「良き都市」という属性は保ちつつも、公に対するそうした貢献の代償として、次第にその自律性を高めることに成功する。

そのことは公権を執行する都市代官との関係に典型的に見て取れる。ブラバント公は、領内の一定地域を統治する代官職—アマン・メール・バイイ・エクテートなど—を有力都市内に配属した¹⁶⁾。当初これらの役職は都市民ではなく、ブラバント公の家人層に与えられていた。彼らは都市参事会の司法活動を統括し、公の徴する税の収受や管轄領域内の治安維持などを担ったのである (Godding [1973] p.98)¹⁷⁾。しかしながら、13世紀に入ると家人層ではなく、有力市民 (=都市貴族)あるいは貴族層の中から公が任命するというように、都市側が一定の任命権を獲得するようになった (Godding [1973] p.103)。

それでも、都市参事会は公の代官が市政へ過度に介入することを嫌い、その権限を抑制することに努力を傾けている¹⁸⁾。例えば、代官が都市民に対する裁判の執行を拒否し、都市側が公へその是正を

12) 本稿では、領主＝貴族層についての本格的検討はひとまず脇に置くこととし、ベルヘン＝オブ＝ズーム Bergen op Zoom をめぐる君主・領主・都市の三者関係を論じた論考 (Van Ham [1988]) を挙げるに留める。

13) ブラバント公領成立史の概要については、Bijsterveld [2004] 及び Steurs [2004a] を参照されたい。

14) 領主層の権威低下は、主として都市的集落を含めた支配領地の分割相続、売却、婚姻などを通じた公領編入にあるとされる。12世紀後半から末期にかけてのそうした具体的事例については Van Uytven [1976a] p.95-96を見よ。

15) 都市法域と特権の地理的拡大は領主層にとって大きな脅威となった。1213年ブレダ領主は、新たな都市法を得たヘーレンタルスやテュルンハウトなどが、ブレダの都市民を引き寄せることのないよう、ブラバント公へ請願を出しているほどである (Van Uytven [1976a] p.95)。

16) ブリュッセル・レウヴェン・ティーネン・ワロン＝ブラバント・アントウェルペン・ス＝ヘルトーヘンボスに配された各領域管轄官については、藤井 [2016b] p.43-45で叙述している。特に12世紀前半ブリュッセルのアマン成立史をめぐっては、Godding [2001b] p.30-31を見られたい。

17) 主として14-15世紀についてであるが、これら代官の市政関与、市内警護といった具体的な任務については、Kerremans [1946] p.121-128, p.140-151を参照。

18) 新任のエクテートとアマンに対し、都市特権を遵守する旨の誓約を強制した、アントウェルペン参事会の次の事例を見よ (1326年)。「... die scoutheete ende die amman selen altoes moeten sweeren, als eerste comen in dambacht, vore die scepenen van Antwerpen, dat si onse recht ende onser vorseiden stat privilegien ende rechte getrouweleke houden selen...」 (Kerremans [1946] p.75)。

訴求しても効果のない場合、都市参事会は代官に対する「裁判忌避」*grève judiciaire* の権利を行使した¹⁹⁾。また、代官の不正疑惑に対して苦情請求を行ったり、当人に対して毎年査問を実施することさえブラバント公に認めさせているのである (Kerremans [1946] p.336)²⁰⁾。

こうした政治力の伸長は、前述した各都市の社会・経済的实力を反映したものであると同時に、他方で諸都市の連携の結果でもあった。というのも、既に13世紀半ばにはブラバント諸都市は多くの利害関係を共有しており²¹⁾、外国での商取引上の安全保障、自都市と他都市民に対する法的保障、更にはブラバント公への支援費用負担の公平性²²⁾などの定立を互いの重要課題と認識していた。これらの解決を図るために、有力都市は次第に協力・連携を図るようになっていたのである²³⁾。そうした中、アンリ3世死去後の公位をめぐる政情不安に備えるべく (Godding [1973] p.113)²⁴⁾、1261年7月26日から1262年6月4日にかけて20ほどの都市が初めて公式な同盟を締結したのであった (Boland [1944] p.283-286/ Van Uytven [1976a] p.97-98)²⁵⁾。

結束と同盟の意思およびその成果を示す一方で²⁶⁾、これらブラバント諸都市は13世紀末以降徐々に成長力格差を招来し始める²⁷⁾。そしてブラバント「7大都市」体制とも言える状況が現出する²⁸⁾。1312年に6都市—レウヴェン・ブリュッセル・アントウェルペン・ス＝ヘルトヘンボス・ティーネン・ザウトレーウ—が後述するコルテンベルフ顧問院の構成メンバーとなり (Van der Straeten [1952] t.2, p.55)、1332年にはこれにニヴェルが加わって有力7都市 (【表2】【表3】) を形成したのである (Van Uytven [1966] p.418-419/ Van Gerven [1988a] p.389-390)²⁹⁾。これらのうちザウトレーウを除いて、6都市は「首座裁判所」*chef de sens, te hoofde gaan* となっている (Kerremans [1946] p.30-56/ Van Gerven

19) 「裁判忌避」については、1290-1291年にジャン1世が発給したレウヴェン・アントウェルペン・リール・ザウトレーウ・ティーネンの各都市法に明記されている、と言う (Godding [1973] p.103, n.25)。

20) 都市による財政支援の見返りとしてジャン3世が認可した最初の査問が、1335年2月1日に行われた。そこでは、ボードワン＝ド＝ウィルデなる人物の財産没収という結果が出されている (Bolsée [1929] p.XVI-XVII)。

21) 1242年には7都市—アントウェルペン・ブリュッセル・レウヴェン・ティーネン・ザウトレーウ・ニヴェル・ディースト—が縮絨工の追放令に関して共同歩調を取る旨の合意を交わしている (Van Gerven [1988a] p.391)。

22) ジャン1世以来ブラバント公は財政困難を極めており、公が必要とする場合の全額か、もしくは外国人金融業者へ借入する際に必要な保証金をブラバント諸都市が支援している (Godding [1973] p.112)。

23) 例えば、1213年仏王フィリップ＝オーギュストとブラバント公アンリ1世との協定文書には、レウヴェン・ブリュッセル・ニヴェル・ティーネンの4都市が証人となっている (Favresse [1938] p.376-378)。また、1244年には公アンリ2世がある城を購入する際に6都市 (レウヴェン・ブリュッセル・アントウェルペン・ス＝ヘルトヘンボス・ティーネン・ザウトレーウ) が証人として立ち現れている (Favresse [1938] p.408-409)。

24) 直系の子供たちがまだ幼く、また、アンリ3世は世継ぎに関して明確な遺言をしていなかったため、彼の異母兄弟や従弟といった有力人物が次期公位を主張したのである (Boland [1944] p.282)。

25) ただし、その後14世紀中1313年と1355年に見られる有力都市間の同盟とは異なり (Boland [1946])、1261年—1262年のそれは、公アンリ3世死去 (1261年2月28日) 以降、長男アンリ4世期の短命な摂政政治 (1261年—1267年) から公弟ジャン1世の継承に至る、不安定な公政を背景として、諸都市間及び公領全土での結束を目的に結ばれたものであり (Boland [1944] p.282-283/ Van Uytven [2004b] p.103-104)、必ずしも公権への対抗を強く意識したものではなかった、とされる (Uyttebrouck [1975] t.1, p.473-474/ Van Gerven [1988a] p.388)。

26) 成果の一端は、1290年から1291年にかけての公ジャン1世からの都市法あるいは自治権の獲得にあったと言える (Van Uytven [1966] p.417-418)。

27) 例えば1261—1262年の都市間同盟において、レウヴェンはジョドワーニュやジヘムのような小都市に対して保護義務を一方的に負ったのとは対照的に、アントウェルペンやティーネン、ザウトレーウなどとは双務的な協定を結んでおり (Boland [1944] p.286-287/ Van Gerven [1988a] p.388)、既にその時点で都市間に一定の序列化が進行していたことが窺える。

28) これには、13世紀末から14世紀初頭にかけてフランドル諸都市で生じた内乱とそれのブラバント諸都市への波及が大きく影響していることは疑いない。これについて詳細は、拙著 (藤井 [2007] p.225-226) を参照されたい。

【表2】ブラバント諸都市の人口

	1374年	人口		1437年	人口
1	Bruxells	21,900	1	Bruxells	32,500
2	Leuven	17,300	2	Mechelen	21,000
3	's-Hertogenbosch	16,400	3	Leuven	18,200
4	Mechelen	13,000	4	Antwerpen	17,500
5	Breda	11,100	5	's-Hertogenbosch	14,700
6	Tienen	10,900	6	Tienen	82,000
7	Antwerpen	7,000	7	Lier	7,900
8	Nivelles	6,300	8	Nivelles	5,800
9	Bergen op Zoom	5,400	9	Bergen op Zoom	5,700
10	Lier	4,800	10	Breda	5,000
11	Aarschot	4,500	11	Herentals	4,900
12	Herentals	4,500	12	Turnhout	4,600
13	Vilvoorde	4,000	13	Geel	4,400
14	Turnhout	3,800	14	Zoutleeuw	4,000
15	Zichem	2,700	15	Aarschot	3,700
16	Overijse	2,500	16	Hilvarenbeek	3,700
17	Steenbergen	2,400	17	Oisterwijk	3,500
18	Geel	2,300	18	Roosendaal	3,400
19	Oss	2,200	19	Oirschot	3,100
20	Hilvarenbeek	2,200	20	Vilvoorde	3,100
21	Jodoigne	2,100	21	Tilburg	2,800
22	Halen	2,000	22	Oosterhout	2,500
23	Braine-l'Alleud	1,900	23	Zichem	2,400
24	Wouw	1,900	24	Wouw	2,400
25	Zoutleeuw	1,800	25	Mol	1,900

*Van Uytven, R. [2004d] p.173 より作成

【表3】ブラバント有力都市の史的変遷（12世紀末-15世紀前半）

アンリ 1 世期 (12世紀末～13世紀前半)		ジャン 3 世期 (14世紀前半)	ジャンヌ・ウェンセラス期以降 (14世紀後半～15世紀前半)
1194年（9都市）	1213年（12都市）	7大都市	4大都市
アントウェルペン	アントウェルペン	アントウェルペン	アントウェルペン
ブリュッセル	ブリュッセル	ブリュッセル	ブリュッセル
レウヴェン	レウヴェン	レウヴェン	レウヴェン
ニヴェル	ニヴェル	ティーネン	ス＝ヘルトヘンボス
ジャンブルー	ジャンブルー	ザウトレーウ	
ティーネン	ティーネン	ス＝ヘルトヘンボス	
ザウトレーウ	ザウトレーウ	ニヴェル	
リール	リール		
ジョドワーニュ	ジョドワーニュ		
	ス＝ヘルトヘンボス		
	ジヘム		
	アールスホット		
Favresse [1938] p.374-376	Van Uytven [1987a] p.118-119	Van Gerven [1988a] p.389-390	Godding [1973] p.116-117

典拠

[1988a] p.391)。首座裁判とは、下級法廷が自ら所管する審理を上級法廷へ持ち越して判決を仰ぐ行為である（藤井 [2010] p.91）。この制度は13世紀にブラバント諸都市で成立した後、中世後期を通じて次第にその制度整備と階層化が進んでいった（Godding [1973] p.116: [1997] p. 282）³⁰⁾。これら7都市は、経済的側面に加え法的側面においても公領内でその権威（パワー）を確立、拡大したのである³¹⁾。

第2節 4大都市の成長―「長期の14世紀」―

(1) コルテンベルフ顧問院の設立

前述した通り、12-13世紀にブラバント公が都市に特権を与えて優遇策を取ったのは、対貴族政策として有効だったからである（Van Uytven [1976a] p.120）。そして、14世紀初頭までに法政的権限を強めた有力都市は、爾後15世紀初頭にかけて、貴族層のみならずブラバント公権に対してさえ強い影響力を行使するようになる³²⁾。その端緒となったのは、コルテンベルフ顧問院の設立であった。

ジャン2世はその死の直前1312年9月27日に、コルテンベルフ憲章 *La Charte de Kortenberg*³³⁾ を公布し³⁴⁾、公領内の安寧秩序を図るための組織として顧問院 *Le Conseil de Kortenberg* の設立を宣言した³⁵⁾。これは恒常的な組織ではなかったものの（Godding [2001a] p.101-102）、公領における行政、司法、財政に関する不正・濫用の調査権を備えた会議体であった³⁶⁾。構成員に任ぜられたのは4人の騎士及び10人の都市代表者で、後者の内訳は、レウヴェンとブリュッセルから各3名、アントウェルペン・ス＝ヘルトール・ヘンボス・ティーネン・ザウトレーウからは各1名の市民というものである³⁷⁾。

29) ジャン3世が1347年に仏王と交わした協定書にも、これら7都市が言及されている、という。ただし、13世紀末から14世紀前半にかけては、ジャンブルーやリール、メヘレンが名を連ねるなど、これら7都市が決して固定した姿を取った訳ではないこと、また必ずしも常に一体となって行動したのでもないことには留意する必要がある（Godding [1973] p.113, n.53/Van Gerven [1988a] p.391-392）。

30) 首座裁判制度については、一般的な叙述として Hermesdorf [1954] を参照されたい。なお、中世ブラバントにおけるその史の変遷は、ゴダンの論考（Godding [1990]: [1997]）に詳しい。また、モンズとヴァランシエンヌを主軸として展開されるエノー伯領での首座裁判制度を取り上げた齋藤 [2016] も参照されたい。

31) 1332年以降諸都市の代表者による公代官への査問調査が定期的に行われているのも（Godding [1973] p.112）、そうした動向の一部に加えられよう。

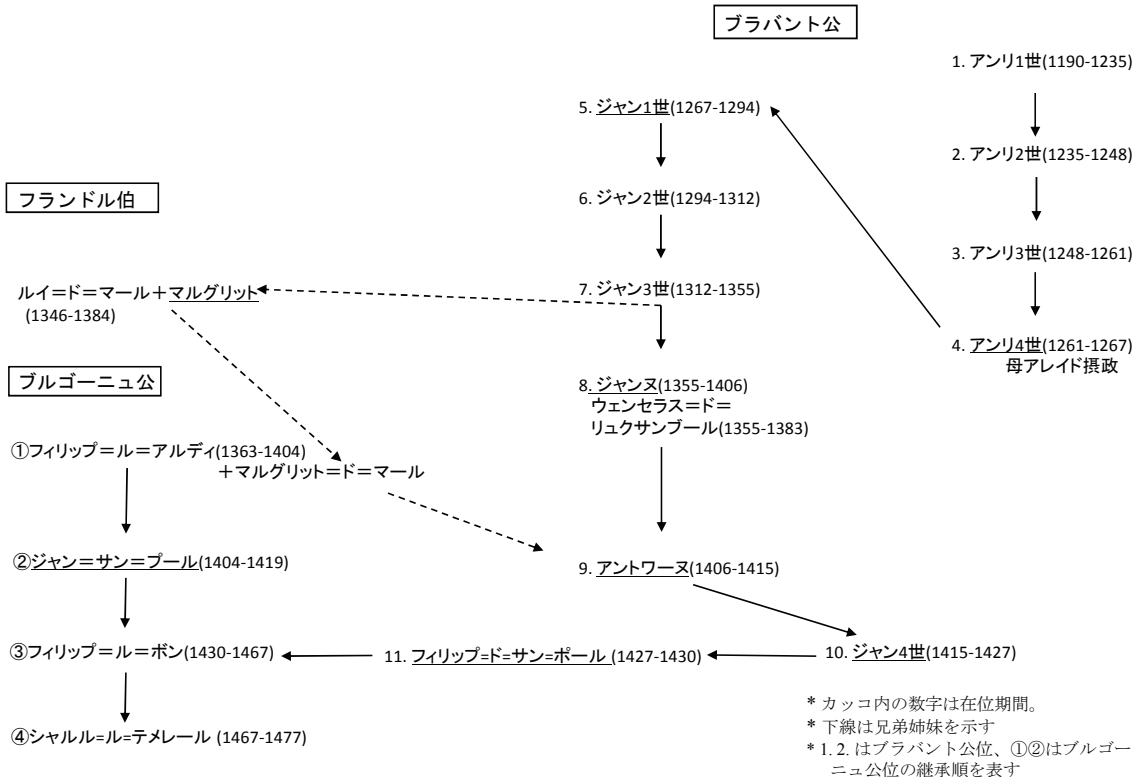
32) ブルゴーニュ公統治開始前のネーデルラント諸都市と領邦君主の関係は、後者に不利な状態であり続けた。その原因は、内外の政情不安とそれに起因する不断の財政的要求とが主たるものである（Godding [1973] p.112/Blockmans, W. [1988b] p.6）。前注20参照。

33) その内容は、後に息子のジャン3世やその娘ジャンヌと女婿ウェンセラス公によって再確認されている（Van der Straeten [1952] p.XI）。とりわけ後者が公位継承にあたって公布した1356年の登位令 *Joyeuse Entrée, Blijde Inkomst* は、その後ブラバント公が代替りする度に再確認ないし強化されていった（Van Bragt [1956] p.7-8）。ヴァン＝アウトフェンは、このコルテンベルフ憲章を英国のマグナ・カルタ（1215年）に匹敵するものと見なしている（Van Uytven [1976a] p.93）。

34) これは、幼少のジャン3世を次期ブラバント公として諸都市が承認する見返りとしての意味合いを持っていた（Godding [1973] p.111）。なお英仏との関係を含めた、同時期の政治状況については、Gorissen [1956] p.5-15/Avonds [1970] p.49-59を見よ。

35) コルテンベルフ憲章と顧問院についてここで詳細を述べる余裕がない。ひとまずこれらに関する古典的二著（Van der Straeten [1952]/Gorissen [1956]）とアーヴォンズの記述（Avons [1991] p.232-264）の参照を推奨しておきたい。

36) 従ってコルテンベルフ顧問院は、15世紀に成立するブラバント顧問院（藤井 [2010]）の先駆的存在と見なすことができる。なおその役割は、13世紀末以降権限が拡大し定着していくドロッサール（＝セネシャル）という、公権における高位代官のそれと競合するようになる、という（Smolar-Meynart [1991] p.36-37）。ドロッサールについては、拙稿（藤井 [2011] p.125-127）参照。



【図2】家系図（12世紀末～15世紀半） *藤井作成

コルテンベルフ顧問院のこうした構成は、同時期におけるブラバント有力都市の政治的権威の高揚を明瞭に示している。しかもこれに留まらなかった。12歳という幼年のジャン3世が1312年に公位を襲うに際し、妻マリーの父であるエヴルー伯ロードウェイクそしてギューリック伯ヘラルド、メヘレン領主ベルトハウトの3貴族が後見団を結成したため（Avonds [1984a] p.17-27）、その勢力拡大を危惧した諸都市が一致してそれに異を唱えたのである（Van Uytven [1976a] p.99）³⁸⁾。そしてわずか数ケ

37) «Vort selen wij ende onse nacomelinghe, bi ghemeinen rade van onsen lande, kiezen binnen lands viere ridders, de orborlecste ende de vroeeste die men vinden mach, omme slands orboere; ende drie goede liede van Lovene, drie goede liede van Brusselle, enen goeden man van Antwerpen, enen vans Hertoghen Bosche, enen van Thienen, ende enen van Leuwe.» (Van der Straeten [1952] vol.2, p.13*).

38) 約半世紀前、病弱な公アンリ4世に代わり、公母アレイドとメヘレン領主ワルテル=ベルトハウトは、中小領主の反対を押し切って公弟ジャンを後継者として押し立てた（【図2】参照）。中小領主層と同盟関係を持ったレウヴェンはアレイド=ジャン派に抵抗したものの、この闘争に敗れ、ジャン1世の登位を承認させられたという経緯がある。この時点では、ブラバント諸都市はまだ公と有力貴族との政治権力に完全には及ばなかったのである（Van Uytven [1976a] p.98）。しかしながら、コルテンベルフ憲章公布後、ジャン2世が死去して生じた政情不安に際しては、コルテンベルフ顧問院に参与していた6都市は連携を強め、ブラバント公による特定都市への優遇措置などに断固対処することを決めている（Godding [1973] p.113）。また、ジャン3世が後に発布した確認文書（1332年8月27日）においては、コルテンベルフ顧問院の構成が見直され、アントワール市民が2名に増員、そして前述した通り、ニヴェル市民1名が追加されている（Van der Straeten [1952] vol.2, p.28*-29*）。こうした事実を見ても、14世紀前半には、もはや大小貴族層は7大都市の権能を無視することはできなくなっているのである（Godding [1973] p.120）。

月後には再び正式に都市同盟が結成されることとなる。というのも、父公ジャン2世の残した膨大な借財のため (Van Gerven [1988a] p.388-389)、財政逼迫状態だったジャン3世は、債権者によって自領の都市民が人質に取られ、債務弁済を迫られるという問題を招いてしまったからである。事態を重く見た諸都市は、1313年7月28日に同盟締結を宣言し³⁹⁾、自らの地位と権利の確認を公へ突き付けたのである。ジャン3世は人質解放のために諸都市へ4万 マルク の財政援助を求め、その見返りとしてワロン憲章 *Les Chartes romanes* を公布し、行財政や貨幣といった諸制度の改革を都市へ約すこととなった (Lousse [1932] p.1-5)。それは、公財政への関与や公代官の任命権を都市の特権として改めて含んでおり (Boland [1946] p.620/Godding [1973] p.112)、都市側から見ればコルテンベルフ憲章を補完・補強するものであった (Van der Straeten [1952] t.1, p.135-137)。

(2) 4大都市体制の出現—援助金を梃子とした—

1351年末頃にジャン3世の男子継承者ゴドフロワが死去し⁴⁰⁾、残されたのがジャンヌとマルグリット、マリーの娘3人だったため、再び公政に危機が訪れた。3人は既にそれぞれ、リュクサンブール公ウエンセラス、フランドル伯ルイ＝ド＝マール、ヘルレ公レイナウド3世と結婚しており、公位の継承や家領の分割が大きな問題となったのである。ジャン3世は生前の1353年から1354年にかけて、後継者をジャンヌとその女婿とし、残る2人の娘には一定金額を遺贈することで世継ぎ問題にひとまず決まりを着けていた (Van Bragt [1957] p.5-8/Avonds [1984a] p.187-191)。

しかし事態が簡単に収束することはなかった。ジャン3世が1355年12月5日に逝去すると、再び内外に混乱を生じたのである⁴¹⁾。公領内では、長女ジャンヌとその夫ウエンセラスの公位継承に諸都市が難色を示していた (藤井 [2010] p.83)。とりわけブリュッセルは、皇帝家と縁の深いウエンセラス⁴²⁾を疎んじたため (Avonds [1984b] p.6-7)、ジャンヌは夫と共に諸都市の旧来の特権を再確認する登位令を1356年2月3日に発することで⁴³⁾、共同統治の承認獲得に漕ぎつけるという状況だったのである (Van Bragt [1956] p.5-7)。

他方、こうした情勢下ジャンヌの妹婿ルイ＝ド＝マールが、ジャン3世の遺産のうち公妃マルグリットの遺留分を追加で要求した。これは、ブラバント公位篡奪を横目に睨んでのことだったことは疑いない (Stein [2004] p.157-158)。フランドル伯との対立はすぐにブラバント継承戦争へと発展する (Avonds [1982] p.455-456/藤井 [2007] p.228-229)。この戦乱はエノー伯ギヨーム5世の仲介によって、

39) この時締結されたのはレウヴェンを中心とした双務的都市同盟で、この時には「良き都市」にマーストリヒトが加わっている (Boland [1946] p.614)。

40) ジャン3世には、ジャン・アンリ・ゴドフロワの3公子がいたが、前2者は早逝し、ゴドフロワも晩年の父とともに公政に携わりながらも、父に先立つこととなった。ゴドフロワの没年については、1352年2月という説が有力とされていたが、それには明確な論拠がないこと、1351年10月29日付の公令を最後にその名前が見られなくなることをもって、アーヴォンズは1351年末頃であろう、との見解を示している (Avonds [1984] p.183-186)。

41) 1355年3月に数十の都市や村落、そして8月には騎士層までもが結束を図っている (Godding [1973] p.113-114/Avonds [1984a] p.223-224)。これは、ジャン3世死去後の混乱を見越し、公領の一体性を求めてのことであった。

42) ブラハ生まれのウエンセラス (ヴェンツェル) は、皇帝カール4世の異母弟である。

43) 前注33参照。この時登位令交付対象となったのは、アントウェルペン・ブリュッセル・レウヴェン・ス＝ヘルトーヘンボス・ザウトレーウ・ティーネンである (Van Gerven [1988a] p.390)。

【表4】定期金発行都市とその適用範囲（15世紀前半）

レウヴェン	ブリュッセル	アントウェルペン	ス＝ヘルトヘンボス
Jodoigne-Hannuit Lummen Tienen	Hoeilaart-La Hulpe-Overijse Nivelles Overzenne Tevuren-Vilvoorde	Herentals Lier	Turnhout

*Van Uytven, R. [2004e] p.233 より作成

1357年6月4日の講和条約で収束するものの（藤井 [2010] p.83）、その過程でメヘレンとアントウェルペンがフランドル伯へ割譲されるなど（Van Uytven [1991a] p.59/Godding [2001a] p.102）⁴⁴⁾、ブラバント公側は大きな犠牲を払う結果となったのだった⁴⁵⁾。

こうした事情を背景に、1357年の時点まではなお維持されていた7大都市体制の中から⁴⁶⁾、ザウトレーウ・ニヴェル・ティーネンの経済的後退もあって（Van Gerven [1988a] p.396）、やがてレウヴェンとブリュッセルが抜きん出た地位を固めつつ⁴⁷⁾、これにス＝ヘルトヘンボスとアントウェルペンが続く、4大都市体制が浮上してくる（Godding [1973] p.96）⁴⁸⁾。その原動力は公権への財政援助とその拡大にあった⁴⁹⁾。

前期4都市は、14世紀末から15世紀初頭にかけて、公領内の「地区」Quartier⁵⁰⁾あるいは「メール管区」Mairieの中心都市としての地位をジャンヌとウェンセラス両公から獲得し、在地の公役人に対するいわば職務指揮権を与えられている。これは、援助金拠出という公への財政支援の結果であった

44) フランドル伯ルイ＝ド＝マールと公女マルグリットの婚姻に際して、父公ジャン3世は1347年に、自らの死去後のこの両都市をフランドル伯へ譲る約束をしていたとされ、それもルイ＝ド＝マールの要求の背景になった（Avonds [1984a] p.191-195）。アントウェルペンは1357年から1406年まで政治的にはフランドル伯領に属したが（Van Gerven [1988a] p.394）、依然として近隣ブラバント都市との密な商流を行っており、実態は「ブラバントの経済都市」だったと言っても良からう（Van Uytven [1986] p.53-54）。

45) しかし他面で、50年代の危機は都市や封建家臣たちに公領全体を保全するという、連帯意識を醸成させた点も見逃すことはできない（Stein [2004] p.161）。

46) 1357年6月1日ジャンヌとウェンセラスは、ブラバント・フランドル対立の仲裁者であるエノー伯の仲裁宣言を遵守する誓約書を公布したが、その際7大都市とジョドワーニュが下署しているのを見て取ることができる、という（Van Gerven [1998a] p.393）。

47) ジャン3世の死去に伴って公政の空白を防ぐべく、1356年にレウヴェン市民は公令を所管する尚書院をテルヴューレンから自都市へ移し（Avonds [1984a] p.223-224）、ブリュッセルは玉璽を保管する、という役割を担った（Van Gerven [1988a] p.390）。これらは両都市の公領内での重要度を示す出来事と言えよう。

48) 1345年のブラバント公ジャン3世と仏王との和解協定においてこれら4都市が言及されており、仏王フィリップ6世の息子たちがフランス側証人として列席している点から見て、既にこの時点でのブラバント4都市の重要な位置づけが分かる（Van Gerven [1988a] p.395）。なお、4大都市の成長に関する一般的叙述としては、Vander Linden [1937], Steurs [2004b] を、また個々の都市については、ブリュッセル（Dickstein-Bernard [1976a-b]: [1979a]）、レウヴェン（Van Uytven [1975]: [1980]）、アントウェルペン（Blockmans, F. [1956]/Doehaerd [1958]/Van Uytven [1986]/Van Gerven [1988b]）、ス＝ヘルトヘンボス（Steurs [1993] p.337-375）を参照されたい。

49) 法的側面に若干言及すると、前述の如くこれら4都市は既に首座裁判所であったが、やがて上訴審としてだけでなく、控訴審としての権限も主張し始め（Godding [1997] p.294）、市外市民や都市参事会証書といった制度の濫用も加わって（藤井 [2011]: [2016b]）、ブラバント公権の法的体现者であるブラバント顧問院との間に軋轢も生じるようになる（藤井 [2010] p.89-93）。ただし、それは本稿の時代射程を外れる15世紀半ば以降のことである。

50) フランドル3大都市ーヘント Gent・ブリュッヘ Brugge・イーブル Ieper ーが14世紀半ばに形成したあの「地区」Quartierを想起せよ（Nicholas [1971] p.152-172: [1992] p.221-224）。なお、ブラバント公領内の領域管轄の空間配置については、拙稿（藤井 [2016b] p.38）を参照されたい。

(Godding [1973] p.116-117)⁵¹⁾。

「援助金」aides, beden とは、「…封建君主が家臣や身分制議会の同意を得て徴収する臨時の税…」であり、ブラバント公領では14世紀30年代が援助金要請の開始時期と推定され、やがて「…ジャン 3 世時代に公の子供の結婚と騎士叙任および公が捕虜となった際の身代金という、3 事由の支出をまかなう場合と定められた」(藤井 [2007] p.252) ことで制度整備が進んでいた。しかしジャンヌ・ウェンセラス両公はその治世期を通じて計 8 度の援助金を要請し (Moureaux-Van Neck [1966] p.66-67)、しかもかつて1312年のコルテンベルフ憲章で規定されたものとは異なる目的が、しばしば要請の理由となっていた⁵²⁾。

その中でも注目すべきは、1374年 4 月30日に承認された援助金であろう (Moureaux-Van Neck [1965] p.268-269)。これは「バースヴァイラーの合戦」Batail de Baesweiler における敗北で生じた莫大な身代金の調達を目途としたものであった⁵³⁾。そもそも援助金の割り当ては、聖職者・貴族・都市が各々 3 分の 1 とされ、そのうち都市分については、レウヴェンとブリュッセルが 3 分の 1 ずつを負担し⁵⁴⁾、残る 3 分の 1 を他 5 都市が分担することとなっていた (Moureaux-Van Neck [1966] p. 70-75)。そして、ブラバント継承戦争を理由とした1356年の徴収時においては、既にそうした慣例が崩れ、7 大都市のみ総額の 2 分の 1 が按分され、更に1374年となると周辺村落を含め 7 大都市へは総額の 8 分の 7 もが割り当てられたのだった (Moureaux-Van Neck [1966] p.72-73)。

しかも援助金をめぐっては、拠出の大幅な負担という面のみに有力都市の重要性が増した訳ではない。ブラバント公の徴税責任者は公政における総財務長官ではあったものの、援助金要請と拠出の交渉過程で都市側は徴税実務を担う権限を獲得し⁵⁵⁾、特に 4 大都市—レウヴェン・ブリュッセル・アントウェルペン・ス＝ヘルトヘンボス—の両替商が援助金の出納業務を実質的に取り仕切ることで、公の行財政へ深く関わることとなったのである (Godding [1973] p.113)⁵⁶⁾。

51) なお公への財政支援としては他に定期金支払いがあった。既に13世紀末にはブラバント諸都市はジャン 1 世から売買税課税の権利を定期金の対価として獲得している (Van Uytven [1966] p.417)。しかもそれ以前は課税の度に公の認可を必要としたのだが、今や、公への毎年の定期金支払いをもとに、12年から20年の長期に渡って認可され、その後も更新されたのであった (Godding [1973] p.100)。4 大都市は自都市を大きく超える範囲で定期金を設定している (【表 4】参照)。

52) 本来臨時の税という性質の援助金の徴収目的は、14世紀半ばから15世紀にかけて次第に戦役・債務償還・入市式のように拡大し (Moureaux-Van Neck [1966] p.67-69)、都市側の歯止め策—例えば1362年のそれ (Quicke [1947] p.103-104)—にも関わらず、公財政における重要かつ恒常的な財源になっていく。こうした推移については、拙著 (藤井 [2007] p. 252-255) で言及した。

53) 東北部方面への領地拡大策を弄した公ウェンセラスは、ヘルレ公と衝突し、1371年 8 月22日バースヴァイラーの合戦で敗れた。多数の家臣と共に自らも捕虜となり、解放された後は捕らわれた家臣たちを助けるための身代金を工面すべく、90万ムートン金貨という莫大な援助金を必要としたのである (Godding [1973] p.112-113)。なお、この件に関する詳細は、Moureaux-Van Neck [1965] を見られたい。

54) この 2 都市の地位については前注47も参照。

55) 援助金の問題を含め領邦君主と都市財政との関係については、拙著 (藤井 [2007] p.51-56) で論じた。

56) 例えば、ブリュッセルについて見れば、1370年代から15世紀初頭まで、de Froyere という家系が公認の両替商となっているのを見て取ることができる (Dickstein-Bernard [1977] p.314-321)。また、貨幣製造特権を公と分かち合っている (Quicke [1947] p.356-357)。

結び—エピローグとともに—

本論文では、君主と都市群との関係が近代国家形成過程に与える影響を考察するための予備的検討として、ヴァロワ・ブルゴーニュ家の系譜がブラバント公位に入り込んでくる前の15世紀初頭までを時代射程に据え、有力都市と公権との政治的関係変化を大まかに概観した。以下それを若干のエピローグとともに振り返ることで結びに代えたい。

ブラバント諸都市が13世紀に毛織物商工業で成長を開始すると、脆弱な公政権は、強い経済的基盤を持って立ち現れて来る十有余の共同体に対し、「良き都市」として都市法を授与したり特権を承認することで、都市からの財政支援を仰ぎ、政治的安定を図った。他方で有力都市は、一層の経済的・法的保障をブラバント公に訴求すべく連携を深めていく。そして、アンリ3世死去による政情不安を背景に、1261年から1262年にかけて最初の都市同盟を結成したのであった。

13世紀も末になると次第に都市間で成長力格差が生じ、14世紀前半には7大都市—レウヴェン・ブリュッセル・アントウェルペン・ス＝ヘルト—ヘンボス・ティーネン・ザウトレーウ・ニヴェルーが浮上してくる。1312年ブラバント公ジャン2世は死去直前に、コルテンベルフ憲章を公布して都市の政治的権限強化を容認するとともに、公の司法・行政における不正・濫用の調査権限を備え、7大都市が強く関与する組織としてコルテンベルフ顧問院を設立した。また、公位継承直後のジャン3世も父公以来積み重なった巨額債務の償還に都市の援助を必要としたため、ワロン憲章を公布することで、コルテンベルフ憲章を補強する政策を都市に示したのであった。

14世紀半ばジャン3世の後継問題が浮上し、長女ジャンヌとその夫ウエンセラスの登位後には、妻の遺留分として公領を睨むフランドル伯ルイ＝ド＝マールとの間でブラバント継承戦争が勃発する。こうした経緯の中、7都市の中から更にレウヴェン・ブリュッセル・アントウェルペン・ス＝ヘルト—ヘンボスが4大都市体制とも言える状況を現出させていく。これには、上記戦乱と1374年のバースヴァイラーの戦いでの戦費調達を目的とする、公からの都市への援助金要求が大きく寄与していた。これを契機として4大都市は、ブラバント公の財政に資金面でも制度面でも一層重要な位置を占めることとなるのである。

子供がないまま寡婦となったジャンヌは、公位をルイ＝ド＝マールと妹マルグリットの次男アントワヌに譲り、ここからヴァロワ・ブルゴーニュ家系によるブラバント公権が開始される⁵⁷⁾。その長男ジャン4世による専断政治と諸都市による反発、その弟フィリップ＝ド＝サン＝ポールによる都市宥和策の推進と1420年代の市政改革の断行といった推移については、既に別の所で論じた（藤井 [2007] p.231-232）。そして、フィリップの突然の死（アールツ [2010] p.1-40）によって、西方の大公と称せられたヴァロワ家第3代のブルゴーニュ公フィリップ＝ル＝ボンがブラバント公位を襲い、そこから君主と諸都市の関係は全く新たな段階に入ることとなる。筆者はその一部について論じたことはあるものの⁵⁸⁾、ブラバント都市全体を視野に入れ、しかもフィリップ＝ル＝ボン登位以前の時期をも含む

57) アントワヌ公に対する都市の援助金拠出は、1408年から1414年まで計4度行われている（Moureaux-Van Neck [1966] p.67）。

詳細な考察にはなお着手できていない。次の課題とする所以である。

文献目録

欧語

- Actes [1973] *Wavre 1222-1972. 750^e anniversaire des libertés communales: Colloque historique. Les franchises communales dans le Brabant Wallon (Wavre, 23-24 sept. 1972)*, Wavre.
- Actes [1992] *Actes du 15^e colloque international “Le réseau urbain en Belgique dans une perspective historique (1350-1850). Une approche statistique et dynamique”*, Spa, 4-6 sept. 1990, (Crédit communal de Belgique. Publication d’histoire, série, in-8°, no.86), Bruxelles.
- Actes [1993] *Genèse de l’Etat Moderne en Méditerranée. Approches historique et anthropologique des pratiques et des représentations: Actes des tables rondes internationales tenues à Paris les 24, 25 et 26 septembre 1987 et les 18 et 19 mars 1988*, (Collection de l’Ecole française de Rome, 168), Paris.
- Actes [1997] *Les élites urbaines du moyen âge. XXVII^e congrès de la SHMES, (Rome, mai 1996)*. Société des Historiens Médiévistes de l’Enseignement Supérieur Public, (Publication de la Sorbonne), Paris.
- Asaert, G. [1973] Handel en kleurstoffen op de Antwerpse markt tijdens de XV^e eeuw, in *Bijdragen en mededelingen betreffende de geschiedenis der Nederlanden*, t.88, p.377-402.
- Avonds, P. [1970] Mechelen en de Brabantse steden (1312-1355): Een bijdrage tot de parlementaire geschiedenis van de Derde Stand, in *Bijdragen tot de geschiedenis inzonderheid van het oud hertogdom Brabant*, t.53, p.17-80.
- Avonds [1982] Brabant en Limburg 1100-1403, in *Algemene Geschiedenis der Nederlanden*, t.2, Haarlem, p.452-482.
- Avonds, P. [1984a] *Brabant tijdens de regering van hertog Jan III (1312-1356): De grote politieke krisissen*, Brussel.
- Avonds, P. [1984b] Zelfbewustzijn en ideologie bij de Brabantse steden in de late middeleeuwen, in *Noordbrabants Historisch Jaarboek*, t.1, p.1-8.
- Avonds, P. [1985] Lovene, die beste stat van Brabant. Stedelijk zelfbewestzijn in de late middeleeuwen, in *De Brabantse stad* [1985] p.5-23.
- Avonds, P. [1991] *Brabant tijdens de regering van Hertog Jan III (1312-1356): Land en instellingen*, Brussel.
- Baerten, J. [1979a] II. Een hoofdstad: Brussel, hoofdstad van een graafschap. Naar autonomie, in Stengers [1979a] p.41-50.
- Baerten, J. [1979b] Brussel, hoofdstad van een hertogdom: Politieke en economische aspecten, in Stengers [1979a] p.56-67.
- Bartier, J. [1979] Brussel, hoofdstad van de Nederlanden. De Bourgondische en Habsburgse centralisatie, in

58) 特に1440年代以降のブリュッセルの市外市民と都市参事会証書及びその濫用問題、そしてフィリップ＝ル＝ボンによる対都市抑制策、がその内容である (藤井 [2011]: [2016b] p.53-63)。

- Stengers [1979a] p.77-90.
- Bauer, R. [1987] /Verbesselt, J./Grauwer, W./Van Uytven, R. et al., *Brabant in de twaalfde eeuw: Een renaissance?* Brussel, (UFSAL).
- Bijsterveld, A.-J. [2004] / Guillardian, D., De vorming van het hertogdom (843-1106), in Van Uytven [2004a] p.41-63.
- Blockmans, F. [1956] Les Lombards à Anvers du XIII^e à la fin du XIV^e siècle, in *Tablettes du Brabant*, t.1, p.229-285.
- Blockmans, W. [1968] De samenstelling van de staten van de Bourgondische landsheerlijkheden omstreeks 1464, in *Standen en Landen*, t.44, p.57-112.
- Blockmans, W. [1988a] Princes conquérants et bourgeois calculateurs. Le poids des réseaux urbains dans la formation des états, in Bulst, N. [1988] p.167-181.
- Blockmans, W. [1988b] La répression des révoltes uraines comme méthode de centralisation dans les Pays-Bas bourguignons, in Cauchies [1988] p.5-9.
- Blockmans, W. [1993] /Genet, J.-P. et al. (eds.), *Visions sur le développement des Etats européens: Théories et historiographies de l'Etat moderne. Actes du colloque organisé par la Fondation européenne de la science et l'Ecole française de Rome (Rome, 18-31 mars 1990)*, Rome.
- Boland, B. [1944] Les deux versions du pacte d'alliance des villes brabançonnnes de 1261-1262, in *Revue belge de philologie et d'histoire*, t.22, p.281- 289.
- Boland, G. [1946] Un siècle d'alliances interurbains en Brabant, in *Miscellanea historica in honorem A. De Meyer*, (Universitatis Catholicae in oppido Lovaniensi iam annos XXV professorist, vol.1), (KUL), Leuven, p.613-625.
- Bolsée, J. [1929] *La grande enquête de 1389 en Brabant*, (Académie royale de Belgique. Commission royale d'histoire. Publications in 8^o), Bruxelles.
- Bonenfant, P. [1953] L'origine des villes brabançonnnes et la route de Bruges à Cologne, in *Revue belge de philologie et d'histoire*, t.31, p.399-447.
- Bonenfant, P. [1962] La fondation de «villes neuves» en Brabant au moyen âge, in *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte*, t.49, p.145-170.
- Bosman, T. [1988]/ Coopmans, J. P. A./Jacobs, B. C. M. (eds.), *De heerlijke stad: 8ste Colloquium. De Brabantse Stad (Bergen op Zoom, 2 en 3 oktober 1987)*, Assen / Maastricht.
- Bosman, T. [1990] et al. (eds.), *Brabandts recht dat is... Opstellen aangeboden aan prof. mr. J. P. A. Coopmans ter gelegenheid van zijn afscheid als hoogleraar Nederlandse rechtsgeschiedenis aan de Katholieke Universiteit Brabant*, (Brabantse rechtshistorische reeks, 5), Assen.
- Bulst, N. [1988]/Genet, J.-P. (eds.), *La ville, la bourgeoisie et la genèse de l'état moderne (XII^e-XVIII^e siècles). Actes du colloque de Bielefeld, 29 novembre-1^{er} décembre 1985*, (CNRS), Paris.
- Cauchies, J.-M. [1988] *Rencontres de Milan (1^{er} au 3 octobre 1987). Milan et les Etats bourguignons: Deux*

- ensembles politiques princiers entre moyen âge et Renaissance (XIV^e-XVI^e siècles)*, (Publication du Centre européen d'études bourguignonnes (XIV^e-XVI^e siècles), no.28, Bâle.
- Daelemans, F. [2001] /Vanrie, A. (eds.), *Bruxelles et la vie urbaine. Archives-Art-Histoire. Recueil d'articles dédiés à la mémoire d'Arlette Smolar-Meynart (1938-2000)*, 2 vols., (Bibliothèque royale de Belgique), Bruxelles.
- De Brabantse stad [1969] *2e Colloquium, 23-24 november 1968, Kasteel Bouwigne, Breda: De rechterlijke organisatie van en de rechtspraktijk in de Brabantse steden in de middeleeuwen*, (Historische sectie van het provinciaal genootschap van kunsten en wetenschappen in Noord-Brabant), 's-Hertogenbosch.
- De Brabantse stad [1975] *4e Colloquium, Brussel 29-30 maart 1974. De verhoudingen tussen stad en platteland in Brabant: Stedelijk imperialisme of zelfbescherming ? (Bijdragen tot de geschiedenis bijzonderlijk van het aloude hertogdom Brabant, 58e Jg.)*.
- De Brabantse Stad [1985] *7e Colloquium, Brussel 13-15 septembre 1984, (Bijdragen tot de geschiedenis, t.68)*.
- De Peuter, R. [1979] Brussel, hoofdstad van de Nederlanden: De economische ontwikkeling, in Stengers [1979a] p.116-129.
- Despy, G. [1968] A propos du droit urbain de Louvain au XIII^e siècle: L'exemple de la ville de Wavre, in *Mélanges offerts à G. Jacquemyns*, Bruxelles, p.191-205.
- Despy, G. [1969] L'implantation du droit de Louvain dans le Brabant wallon au XIII^e siècle, in De Brabantse stad [1969] p.35-46.
- Depy, G. [1973] Les phénomènes urbains dans le Brabant wallon jusqu'aux environs de 1300, in Actes [1973] p.21-53.
- Dickstein-Bernard, C. [1976a] Une ville en expansion (1291-1374), in Martens [1976a] p.99-138.
- Dickstein-Bernard, C. [1976b] Bruxelles, résidence princière (1375-1500), in Martens [1976a] p.139-165.
- Dickstein-Bernard, C. [1977] *La gestion financière d'une capitale à ses débuts: Bruxelles, 1334-1467 (Annales de la société royale d'archéologie de Bruxelles, t. 54)*, Bruxelles.
- Dickstein-Bernard, C. [1979a] Activité économique et développement urbain à Bruxelles (XIII^e-XV^e siècles), in *Cahiers bruxellois*, t.24, p.52-62.
- Dickstein-Bernard, C. [1979b] Brussel, hoofdstad van een graafschap: De Gilde, in Stengers [1979a] p.51-55.
- Dickstein-Bernard, C. [1979c] Brussel, hoofdstad van een hertogdom: Sociale aspecten, in Stengers [1979a] p.69-74.
- Doehaerd, R. [1958] Marchands mosans sur le marché d'Anvers à la fin du moyen âge, in *Mélanges Félix Rousseau: Etudes sur l'histoire du pays mosan au moyen âge*, Bruxelles, p.265-281.
- Duvosquel, J.-M. [1996] /Nazet, J./Vanrie, A. (eds.), *Les Pays-Bas bourguignons: Histoire et institutions. Mélanges André Uyttebrouck*, Bruxelles.
- Favresse, F. [1938] Actes intéressants la ville de Bruxelles 1154-2 décembre 1302, in *Bulletin de la commis-*

- sion royale d'histoire*, t.103, p.355-512.
- Ganshof, F. L. [1934] Coup d'oeil sur l'évolution territoriale comparée de la Flandre et du Brabant, in *Annales de la société royale d'archéologie de Bruxelles*, t.38, p.83-96.
- Genet, J.-P. (ed.) [1990] *L'Etat moderne: Genèse. Bilans et perspectives. Actes du Colloque tenu au CNRS à Paris les 19-20 septembre 1989*, Paris.
- Genet, J.-P. [1996] /Lottes, G. (eds.), *L'Etat moderne et les élites, XIII^e-XVIII^e siècles. Apports et limites de la méthode prosopographique. Actes du colloque international CNRS-Paris I, 16-19 octobre 1991*, Paris.
- Godding, P. [1953] Liste chronologique provisoire des ordonnances intéressant le droit privé et pénal de la ville de Bruxelles (1229-1657), in *Bulletin de la commission royale des anciennes lois et ordonnances de Belgique*, t.17, p.339-400.
- Godding, P. [1954] Les conflits à propos des lettres échevinales des villes brabançonnnes (15^e-18^e siècles), in *Revue d'histoire du droit*, t.22 p.308-353.
- Godding, P. [1962] La bourgeoisie foraine de Bruxelles du XIV^e au XVI^e siècle, in *Cahier bruxellois*, t.7, p.1-64.
- Godding, P. [1973] Le pouvoir urbain en Brabant au moyen âge, in Actes [1973] p.95-122.
- Godding, P. [1975] Impérialisme urbain ou auto-défence: Le cas de Bruxelles (12^e-18^e siècles), in *De Brabantse stad* [1975] p.117-138.
- Godding, P. [1990] Le Conseil de Brabant, chef de sens, au XV^e siècle, in Bosman [1990] p. 121-133.
- Godding, P. [1997] Appel et recours à chef de sens en Brabant aux XIV^e et XV^e siècles. Wie hoet heeft, die heeft beroep, in *Tijdschrift voor rechtsgeschiedenis*, t.65, p.281-297.
- Godding, P. [2001a] Le conseil de Brabant sous Philippe le Bon. L'institution et les hommes, in Stein [2001] p.101-114.
- Godding, P. [2001b] L'adaptation de la justice échevinale aux besoins d'une ville en expansion: Le cas de Bruxelles (12^e-18^e siècles), in Daelemans [2001] p.29-72.
- Gorissen, P. [1956] *Het Parlement en de Raad van Kortenberg*, (*Standen en Landen*, t.11), Leuven.
- Grootaers, W. [1993] Praal en tegenspoed van de Lierse lakennijverheid (13de-16de eeuw), in *Lira Elegans*, t.3, p.105-126.
- Hermesdorf, B. H. D. [1954] Te hoofde gaan, in *Verslagen en Mededelingen. Vereeniging tot Uitgaaf der Bronnen van het Oud-Vaderlandsche Recht*, t.11, p.17-50.
- Hoebanx, J.-J. [1963] Nivelles est-elle brabançonne au moyen âge? in *Revue belge de philologie et d'histoire*, t.41, p.361-396.
- Hommage [1965] *Hommage au professeur Paul Bonenfant (1899-1965)*, Bruxelles.
- Kerremans, C. [1946] *Etude sur les circonscriptions judiciaires et administratives du Brabant et les officiers placés à leur tête par les ducs antérieurement à l'avènement de la maison de Bourgogne (1406)*, Gembloux.
- Lousse, E. [1932] Les deux chartes romanes brabançonnnes du 12 juillet 1314, in *Bulletin de la commission*

- royale d'histoire*, t.96, p.1-47.
- Martens, M. (dir.) [1976a] *Histoire de Bruxelles*, (Editions universitaires, Privat), Toulouse.
- Martens, M. [1976b] Bruxelles, centre d'un comté de type seigneurial (1040-1291), in Martens [1976a] p.47-83.
- Moureaux-Van Neck, A. [1965] L'aide brabançonne de 1374, in *Hommage* [1965] p.267-283.
- Moureaux-Van Neck, A. [1966] Un aspect de l'histoire financière du Brabant au moyen âge: Les aides accordées aux ducs entre 1356-1430, in *Annales de la société royale d'archéologie de Bruxelles*, t.51, (1962-1966), Bruxelles, p.65-94.
- Nicholas, D. [1971] *Town and countryside: Social, economic and political tensions in Fourteenth-Century Flanders*, Brugge.
- Nicholas, D. [1992] *Medieval Flanders*, London/New York.
- Peeters, J.-P. [1972] Bloei en verval van de middeleeuwse stadsvrijheid Vilvoorde, in *Eigen schoon en de Brabander*, 55e Jg., no. 5-6, p.220-228; no.7-8, p.303-319.
- Peeters, J.-P. [1982] De betekenis der stad Zoutleeuw als centrum van lakennijverheid in Brabant van de 13e tot de 16e eeuw, in *Eigen schoon en de Brabander*, 65e Jg., no.1-3, p.14-54; no.4-6, p.193-215; no.10-12, p.430-473.
- Peeters, J.-P. [1984] De productiesrtructuur der Mechelse lakennijverheid en de ambachten van wevers en volders van 1270 tot 1430, in *Handelingen van de koninklijke kring voor oudheidkunde, letteren en kunsten van Mechelen*, t.88, p.93-158.
- Peeters, J.-P. [1988] De stedelijke lakennijverheid en haar alternatieven te Tienen op het einde van de middeleeuwen, in *Eigen schoon en de Brabander*, 71e Jg., p.121-142.
- Peeters, J.-P. [1989] De middeleeuwse lakennijverheid in de stad Diest tot omstreeks 1400: Organisatie en betekenis, in *Eigen schoon en de Brabander*, 71e Jg., p.245-279.
- Quicke, F. [1947] *Les Pays-Bas à la veille de la période bourguignonne, 1356-1384. Contribution à l'histoire politique et diplomatique de l'Europe occidentale dans la seconde moitié du XIV^e siècle*, Paris.
- Smolar-Meynart, A. [1991] *La justice ducale du plat pays, des forêts et des chasses en Brabant, XII^e-XVI^e siècles. Sénéchal, Maître des bois, Gruyer, Grand Veneur* (*Annales de la société royale d'archéologie de Bruxelles*, t. 60), Bruxelles.
- Spallanzani, M. (ed.) [1976] *Produzione commercio e consumo dei panni di lana, (nei secoli XII-XVIII)*, (Istituto internazionale di storia economica F. Datini, Prato), Firenze.
- Stein, R. (ed.) [2001] *Powerbrokers in the late middle ages: The Burgundian Low Countries in a European context* (Burgundica, IV), (Brepols), Turnhout.
- Stein, R. [2004] Vreemde vosten op de troon, in Van Uytven [2004a] p.157-169.
- Stengers, J. [1979a] et al. (eds.), *Brussel. Groei van een hoofdstad*, Antwerpen.
- Steurs, W. [1993] *Naissance d'une région. Aux origines de la mairie de Bois-le-Duc. Recherches sur le Brabant*

- septentrional aux XII^e et XIII^e siècles*, Bruxelles.
- Steurs, W. [2004a] Van het graafschap Leuven naar het hertogdom Brabant: De verovering en de opbouw van een vorstendom, in Van Uytven [2004a] p.65-70.
- Steurs, W. [2004b] De stedelijke expansie, in Van Uytven [2004a] p.78-80.
- Uyttebrouck, A. [1975] *Le gouvernement du duché de Brabant au bas moyen âge (1355-1430)*, (Travaux de la faculté de philosophie et lettres de l'Université de Bruxelles, 59), 2 vols., Bruxelles.
- Uyttebrouck, A. [1976] De politieke rol van de Brabantse steden in de late middeleeuwen, in *Bulletin du crédit communale de Belgique*, no.116, p.115-130.
- Van Bragt, R. [1956] *De blijde inkomst van de hertogen van Brabant, Johanna en Wenceslas (3 januari 1356). Een inleidende studie en tekstuitgave*, (Standen en Landen, t.13), Leuven.
- Van der Straeten, J. [1952] *Het Charter en De Raad van Kortenbergh*, 2 vols., Brussel.
- Van Gerven, J. [1998a] De Brabantse steden: één groep? Belangentegenstellingen en -conflicten tussen de steden onderling van de dertiende tot de vijftiende eeuw, in *Bijdragen tot de geschiedenis*, t. 81, p.385-406.
- Van Gerven, J. [1998b] Antwerpen in de 14de eeuw. Kleine stad zonder toekomst of opkomend handelscentrum ? in *Belgisch tijdschrift voor filologie en geschiedenis*, t.76, p.907-938.
- Van Ham, W. A. [1988] Een driehoeksverhouding in westelijk Noord-Brabant: De relatie tussen hertog, heer en stad te Bergen op Zoom, in Bosman [1988] p.93-109.
- Van Isacker, K. [1986]/Van Uytven, R. (dir.), *Anvers. Douze siècles d'art et d'histoire*, Anvers.
- Van Uytven, R. [1965] De omvang van de Mechelse lakenproductie vanaf de 14e tot de 16e eeuw, in *Noordgouw*, t.5, p.109-130.
- Van Uytven, R. [1966] Standenprivileges en -beden in Brabant onder Jan I (1290-1293), in *Belgisch tijdschrift voor filologie en geschiedenis*, t.44, p.413-456.
- Van Uytven, R. [1975] Imperialisme of zelfverdediging: De extra-stedelijke rechtsmacht van Leuven, in *De Brabantse stad* [1975] p.7-71.
- Van Uytven, R. [1976a] Vorst, adel en steden: Een driehoeksverhouding in Brabant van de 12e tot de 16e eeuw, in *Bijdragen tot de geschiedenis*, t.59, p.93-122.
- Van Uytven, R. [1976b] La draperie brabançonne et malinoise du XII^e au XVII^e siècle: Grandeur éphémère et décadence, in Spallanzani [1976] p.85-97.
- Van Uytven, R. [1980] *Leuven: De beste stad van Brabant*. t.1: *De geschiedenis van het stadsgewest Leuven tot omstreeks 1600*, Leuven.
- Van Uytven, R. [1983] Het recht van Leuven en 's-Hertogenbosch bij het begin van de dertiende eeuw, in *Tijdschrift voor geschiedenis*, t.95, p.28-36.
- Van Uytven, R. [1986] Le port rhénan, le marché régional et les foires annuelles internationales, in Van Isacker [1986] p.50-55.
- Van Uytven, R. [1987a] Economische groei in het Hertogdom Brabant tijdens de twaalfde eeuw, in Bauer

[1987] p.113-128.

Van Uytven, R. [1987b] Economische en stedelijke groei in het hertogdom Brabant tijdens de dertiende eeuw, in *De Brabantse Folklore*, no.253, p.31-43.

Van Uytven, R. (ed.) [1991a] *De geschiedenis van Mechelen: Van heerlijkheid tot stadsgewest*, Tielt.

Van Uytven, R. [1991b] De Mechelse burgers tegenover hun politieke meesters, in Van Uytven [1991a] p.58-59.

Van Uytven, R. [1992] Brabantse en Antwerpse centrale plaatsen (14de-19de eeuw), in *Actes* [1992] p.29-79.

Van Uytven, R. [2004a] /Bruneel, C. et al. (dirs.), *Geschiedenis van Brabant: Van het hertogdom tot heden*, (Davidsfonds), Leuven.

Van Uytven, R. [2004b] 'Edele Brabant, Were Di', in Van Uytven [2004a] p.103-112

Van Uytven, R. [2004c] Het gewicht van de goede steden, in Van Uytven [2004a] p.118-125.

Van Uytven, R. [2004d] Beroering onder de Brabantse steden, in Van Uytven [2004a] p.171-179.

Van Uytven, R. [2004e] De kern van een dynastieke federatie, in Van Uytven [2004a] p.213-234.

Vander Linden, H. [1937] De vier hoofdsteden van het hertogdom Brabant (Leuven, Brussel, Antwerpen, en 's-Hertogenbosch), in *Mededelingen van de Afdeling Letteren en Staat- en Zedenkundige Wetenschappen van de Koninklijke Belgische Academie*, t.23, p.418-428.

Verellen, J. R. [1955] Lakennijverheid en lakenhandel van Herentals in de 14e, 15e en 16e eeuw, in *Taxandria: Tijdschrift van de koninklijke geschied- en oudheidkundige kring van Antwerpse Kempen*, t.27, p.118-180.

邦語

アールツ, E. [2010] (藤井美男訳)『中世ヨーロッパの医療と貨幣危機—ある君主の検屍報告と貨幣不足問題の分析—』(アールツ教授講演会録2)(九州大学出版会).

齋藤綱子 [2016]「ブルゴーニュ公国形成期における都市と領邦君主—ヴァランシエンヌとモンス—」
藤井 [2016a] p.3-34.

藤井美男 [1985]「南ネーデルラント『市外市民制』に関する一考察」『経済論究』(九州大学)第61号, p.145-172.

藤井美男 [1987]「中世後期南ネーデルラントにおける都市=農村関係の研究—1960年以降ベルギー学界の動向を中心に—」『商経論叢』(九州産業大学)第27巻第4号, p.259-296.

藤井美男 [1998]『中世後期南ネーデルラント毛織物工業史の研究—工業構造の転換をめぐる理論と実証—』(九州大学出版会).

藤井美男 [2007]『ブルゴーニュ国家とブリュッセル—財政をめぐる形成期近代国家と中世都市—』(ミネルヴァ書房).

藤井美男 [2010]「(研究ノート)15世紀ブラバント顧問院の成立について」『経済学研究』(九州大学)

第76巻第6号, p.81-98.

藤井美男 [2011] 「中世後期ブリュッセル市外市民とブラバント（ブルゴーニュ）公権—ヴァン＝アウトフェン事件を事例として—」『経済学研究』（九州大学）第78巻第2・3合併号, p.121-155.

藤井美男（編）[2016a] / ブルゴーニュ公国史研究会（著）『ブルゴーニュ国家の形成と変容—権力・制度・文化—』（九州大学出版会）.

藤井美男 [2016b] 「15世紀中葉フィリップ＝ル＝ボンの対都市政策—ブラバント都市ブリュッセルの事例を中心に—」藤井 [2016a] p.35-78.

* 本論文は、独立行政法人日本学術振興会の科学研究費補助金（平成27年度～平成30年度、基盤研究（C）、課題番号（15K02940）、課題名「市外市民と上級権力：西欧中近世における都市・国家関係の研究」）による研究成果の一部である。

〔九州大学大学院経済学研究院 教授〕